

# FUJITSU Software NetCOBOL

## 購入例：Windows

2020年9月14日時点

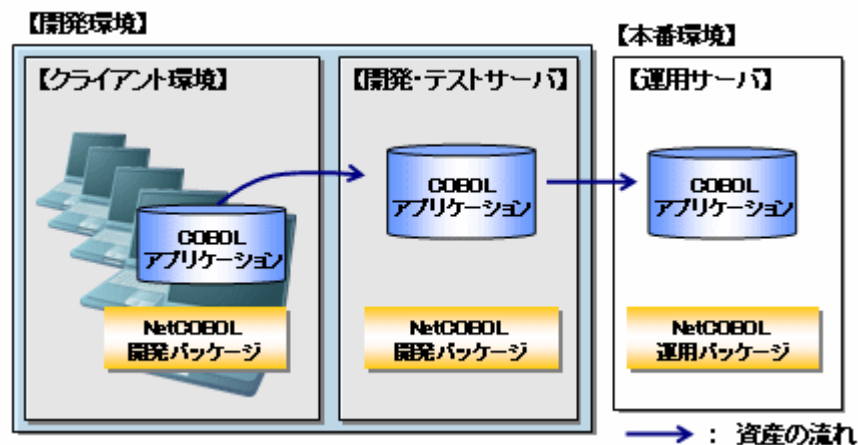
1. サーバアプリケーションを開発する場合 .....	2
2. Interstage Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合 .....	7
3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合 .....	11
4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合 .....	13

## 1. サーバアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に 説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、 テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

### ローカル開発



#### 【開発環境】

クライアント環境では、Windows 環境 PC(5 台)で開発します。

開発・テストサーバ (Windows) において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

#### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ (Windows: (シングルコアプロセッサ) 8 プロセッサ) に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

## 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

### 32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント環境	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注1)</b>	5
開発・テストサーバ	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit)	1
運用サーバ	Windows NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	8

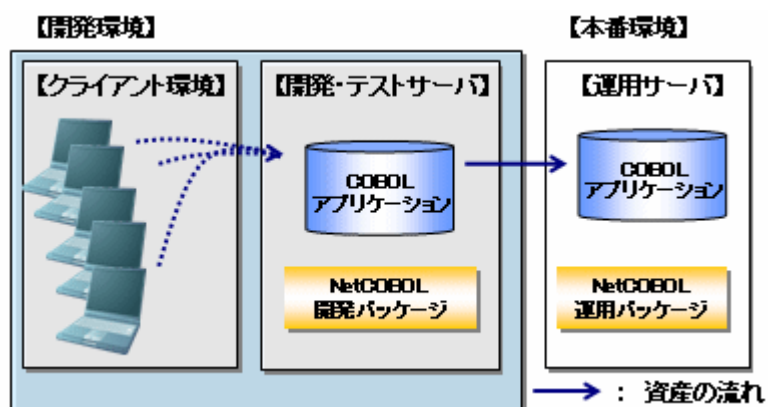
**注1)** 上記購入例は、「開発・保守支援ツール、資産管理を使って開発」する場合があります。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント環境	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit) <b>(注2)</b>	5
開発・テストサーバ	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)	1
運用サーバ	Windows NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (64bit)	8

**注2)** 上記購入例は、「開発・保守支援ツール、資産管理を使って開発」する場合があります。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

## リモートデスクトップサービスによるリモート開発



### 【開発環境】

開発・テストサーバ (Windows 32bit) に NetCOBOL 開発環境をインストールします。リモートデスクトップサービスを利用して、Windows 環境 PC (5 台) で COBOL アプリケーションを開発します(注3)。さらに、リモートデスクトップサービスを利用して、PC から COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。(注4)

### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ (Windows 32bit: (シングルコアプロセッサ) 8 プロセッサ) に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

**注3)** リモートデスクトップサービスを利用して開発するため、クライアント環境への製品のインストールは不要です。

**注4)** リモートデスクトップサービスを利用しないで、サーバで翻訳・リンクする場合は、別途サーバ分のライセンスも必要となります。

### 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

32bit アプリケーションを開発する場合

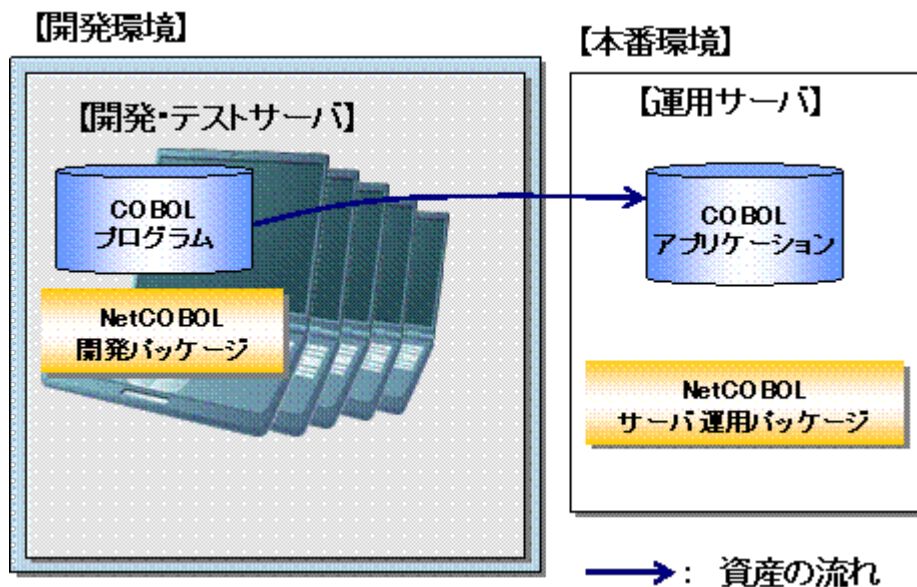
使用する環境	製品名	ライセンス
開発・テストサーバ	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit)(注5)	5
運用サーバ	Windows NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	8

**注5)** 上記購入例は、「Windows (32bit) 開発環境(NetCOBOL Studio)を使ってリモート開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

## NetCOBOL 開発環境による開発

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. 開発・テストサーバの各 PC で、開発環境（NetCOBOL Studio）を使って COBOL アプリケーションをリモート開発します。
2. 開発・テストサーバで、作成した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。



### 【開発環境】

開発環境では、PC (5 台) で Windows の開発・テストサーバの開発環境（NetCOBOL Studio）を使って、リモート開発します。

開発・テストサーバにおいて、開発した COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。

### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ（Windows (シングルコアプロセッサ) : 8 プロセッサ) に、COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

## 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

### 32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
開発・テストサーバ	Windows NetCOBOL Professional Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注6)</b>	5
運用サーバ	Windows NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	8

**注 6)** 上記購入例は、「Windows (32bit) 開発環境(NetCOBOL Studio)を使ってリモート開発する場合」です。開発環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
開発・テストサーバ	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit) <b>(注7)</b>	5
運用サーバ	Windows NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ	8

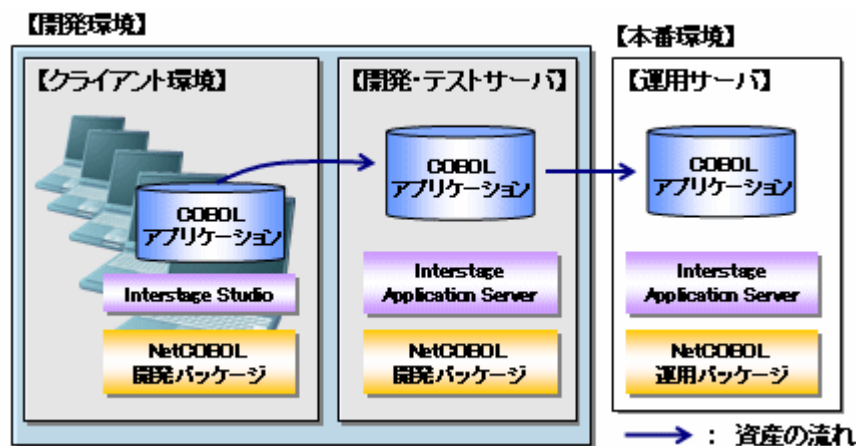
**注 7)** 上記購入例は、「Windows (64bit) 開発環境(NetCOBOL Studio)を使ってリモート開発する場合」です。開発環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

## 2. Interstage Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションをコンパイル、リンクし、テストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

### ローカル開発



#### 【開発環境】

クライアント環境では、Windows (32bit)環境 PC (5 台) で、Interstage Studio を使って開発します。

開発・テストサーバ (Windows (32bit)) において、クライアント環境で作成した COBOL アプリケーションをコンパイル・リンクし、テストを実施します。

#### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ (Windows : 1 プロセッサ) に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

#### 必要ライセンス

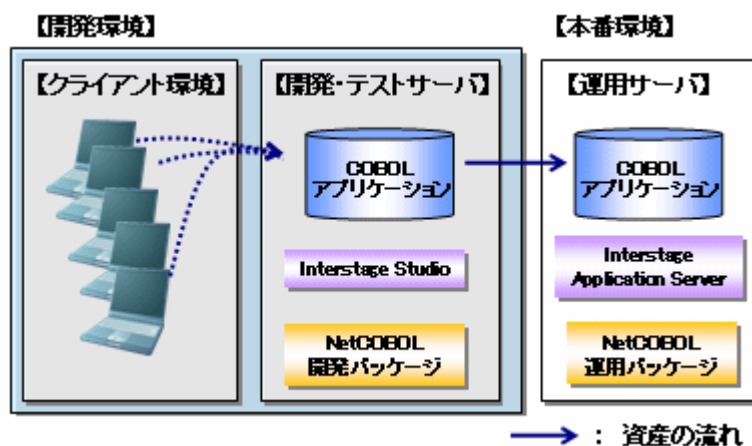
開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント環境	Windows (32bit) Interstage Studio Enterprise Edition	5
	Windows NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) <b>(注1)</b>	5
開発・テストサーバ	Windows (32bit) Interstage Application Server Enterprise Edition	1
	Windows NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit)	1
運用サーバ	Windows (32bit) Interstage Application Server Enterprise Edition	1
	Windows NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	1

**注1)** 上記購入例は、「帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。



## ターミナルサービスによるリモート開発



### 【開発環境】

開発・テストサーバ (Windows 32bit) に NetCOBOL 開発環境をインストールし、ターミナルサービスを利用します(注2)。Windows 32bit 環境 PC(5 台)で Interstage Studio を使って、COBOL アプリケーションを開発します。さらにターミナルサービスを利用して、PC から COBOL アプリケーションをコンパイル・リンクし、テストを実施します。(注3)

### 【本番環境】

テスト終了後、運用サーバ (Windows : 1 プロセッサ) に COBOL アプリケーションを配備し、運用します。

**注2)** ターミナルサービスを利用して開発するため、クライアント環境への製品のインストールは不要です。

**注3)** ターミナルサービスを利用しないで、サーバで翻訳・リンクする場合は、別途サーバ分のライセンスも必要となります。

### 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

使用する環境	製品名	ライセンス
開発・テストサーバ	Windows (32bit) Interstage Studio Enterprise Edition	5
	Windows NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ (32bit) (注4)	5
運用サーバ	Windows (32bit) Interstage Application Server Enterprise Edition	1
	Windows NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	1

**注4)** 上記購入例は、「画面帳票があるサーバアプリケーションを開発する場合」です。クライアント環境で使用する製品は、ご使用になる機能により、必要なエディションを選択してください。詳細は、「[機能一覧](#)」を参照してください。

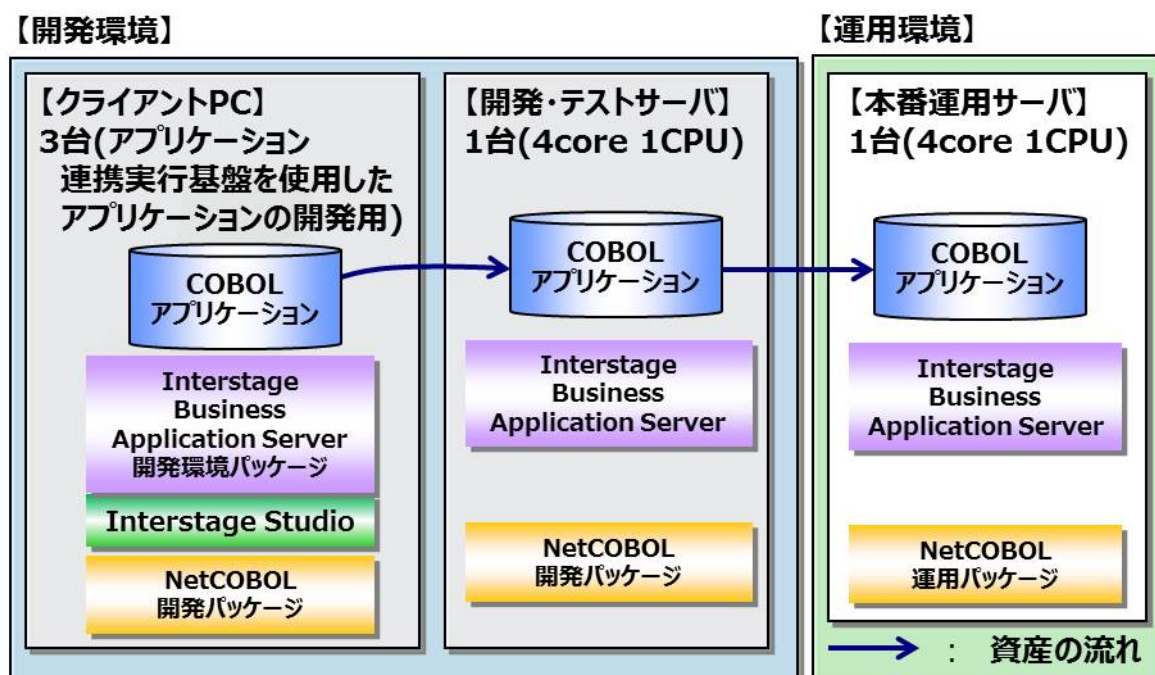


### 3. Interstage Business Application Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に 説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションのテストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

#### 開発・運用環境



#### 【開発環境】

クライアント PC は Windows 環境(3 台)で、Interstage Studio を利用しアプリケーション連携実行基盤を使用して COBOL アプリケーションを開発します。また、COBOL アプリケーションをコンパイル・リンクします。

開発・テストサーバ (Windows : 4core 1CPU) に COBOL アプリケーションを転送後、配備してテストを実施します。

#### 【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Windows : 4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

## 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

### 32bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント PC	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注 1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注 2)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit) (注 3)	3
開発・テストサーバ	Windows (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)	2
運用サーバ	Windows (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	2

**注 1)** Windows (32bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

**注 2)** Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

**注 3)** アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

### 64bit アプリケーションを開発する場合

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント PC	Interstage Business Application Server 開発環境パッケージ(注 4)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition(注 5)	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)(注 6)	3
開発・テストサーバ	Windows (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (64bit)	2
運用サーバ	Windows (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (64bit)	2

**注 4)** Windows (64bit) Interstage Business Application Server Standard Edition に同梱されています。

**注 5)** Interstage Business Application Server に同梱されています。(1 ライセンス利用可能です)

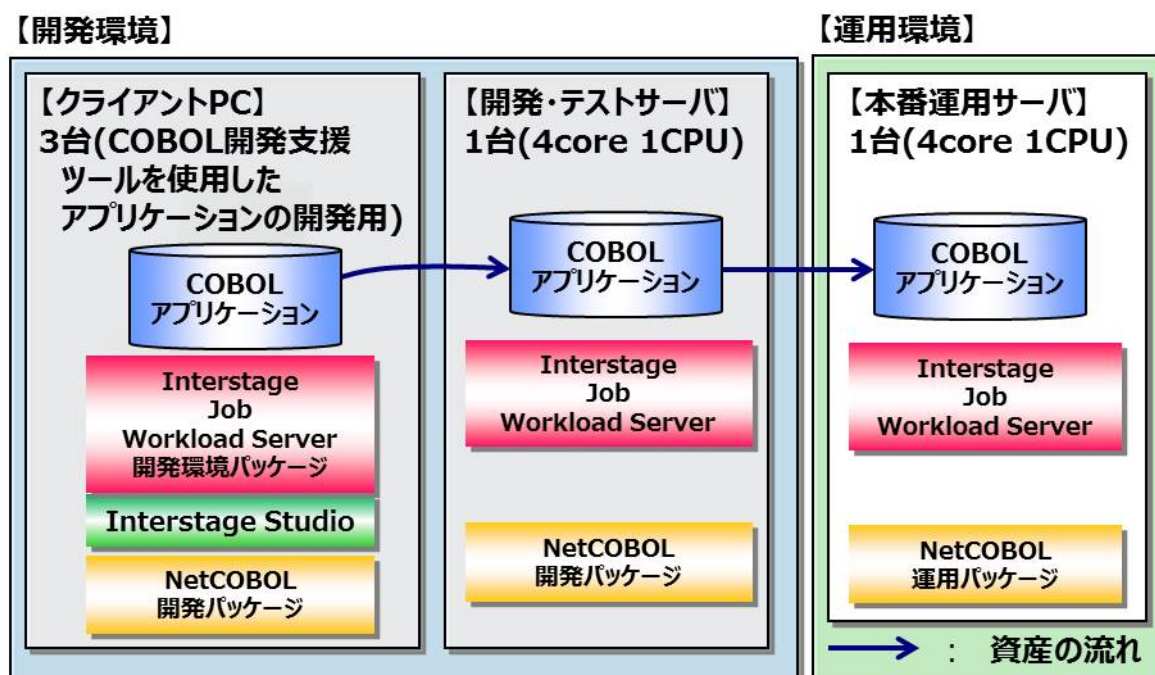
**注 6)** アプリケーション連携実行基盤を使用しないアプリケーションは、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。

## 4. Interstage Job Workload Server と連携したアプリケーションを開発する場合

ここでは、以下のような流れで、COBOL アプリケーションを開発、運用するパターンを例に 説明します。

1. クライアント環境にある各 PC で、COBOL アプリケーションを開発します。
2. 開発・テストサーバで、各 PC の COBOL アプリケーションのテストを実施します。
3. 運用サーバに COBOL アプリケーションを配置し、運用します。

### 開発・運用環境



#### 【開発環境】

クライアント PC は Windows (32bit)環境(3 台)で、Interstage Studio を利用し COBOL 開発支援ツールを使用して COBOL アプリケーションを開発します。また、COBOL アプリケーションをコンパイル・リンクします。

開発・テストサーバ (Windows (32bit)、4core 1CPU) に COBOL アプリケーションを転送後、配備してテストを実施します。

#### 【運用環境】

テスト終了後、運用サーバ(Windows(32bit)、4core 1CPU)に COBOL アプリケーションを転送後、配備して運用します。

## 必要ライセンス

開発環境製品はインストール台数従量制、サーバ運用環境製品は搭載プロセッサ数従量制です。ライセンスの考え方については、[ライセンス](#)を参照してください。

使用する環境	製品名	ライセンス
クライアント PC	Interstage Job Workload Server 開発環境パッケージ(注 1)	-
	Interstage Studio Standard-J Edition	3
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)(注 2)	3
開発・テストサーバ	Windows (32bit) Interstage Job Workload Server	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ (32bit)	2
運用サーバ	Windows (32bit) Interstage Job Workload Server	2
	Windows NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ (32bit)	2

**注 1)** Windows (32bit) Interstage Job Workload Server に同梱されています。

**注 2)** COBOL 開発支援ツールを使用しないアプリケーションの開発は、NetCOBOL Enterprise Edition 以外のエディションでも開発可能です。